

地域公共交通計画における数値目標の経過

全体の評価指標	現状 (2021)	目標値 (2028)	経過 (2024見込)	経過の分析
●バス・デマンド型乗合タクシーの利用者数	133,307人	160,000人	156,800人	・感染症の影響緩和や、公共交通無料デーなどのMMの実施で利用者数が回復した。 ・150,141人(R5)→156,800人(R6)
●鉄道駅の乗降者数数 (坂出駅、八十場駅、鴨川駅、讃岐府中駅)	3,593,347人 (2020年)	4,461,000人	4,026,272人 (2023年)	・3,880,280人(R4)→4,026,272人(R5)
●バス・デマンド型乗合タクシー全体の収支率	17%	現状より改善	18.07%	・利便増進事業に基づく循環バスの効率化で費用が削減できた。 ・16.49%(R5)→18.07%(R6)
●バス・デマンド型乗合タクシー全体の収支差	▲134百万円	現状より改善	▲137百万円	・利用者増やゾーン制運賃の効果等で改善した。 ・▲145百万円(R5)→▲137百万円(R6)
●バス・デマンド型乗合タクシーの公的負担投入額(国・県・市の補助合計)	112百万円	現状より改善	120百万円	・運行効率化と収支改善により、公的負担投入額が減った。 ・128百万円(R5)→120百万円(R6)

基本方針に基づく評価指標		現状 (2021)	目標値 (2028)	経過 (2024見込)	経過の分析
方針Ⅰ	●循環バスの利用者数	52,413人	60,000人	48,846人	・59,924人(R5)→48,846人(R6) ・3.5人/便(R5)→5.0人/便(R6) ・再編に伴い全体便数が減少した ・東西ルートが病院に直接アクセスするため乗換需要が減少した(R5乗換券利用実績：2,554枚) ・ゾーン制運賃への統一により、中心部内の移動に他路線も活用されるようになった(他路線バスの年間利用者数増減：+12,950人)
方針Ⅱ	●生活利便施設への新たなアクセス件数	—	3件以上	8件	・ハローズ林田店(王越線R4.10)→R6.10再編 ・マルナカスーパーセンター(循環バスR5.10) ・スーパーマーケット3箇所、総合病院3箇所での乗降対応(R5.10デマンドタクシー)
	●乗り方教室等のモビリティマネジメントの実施件数	5件	現状以上	12件	・幼稚園・保育園・こども園で9回(予定) ・地域イベントで3回出展
方針Ⅲ	●新たな企画乗車券の発行	—	実施	4種類	・R5.10～利便増進事業として、中心部フリー1日乗車券、全線フリー1日乗車券、中心部フリー定期券、坂出市民割プリペイドチケット
	●重点維持路線の収支率	17%(島) 19%(王越)	現状より改善	14.6%(島) 21.5%(王越)	・瀬戸大橋線は収入の増加を上回る費用の増加があり、収支が悪化した。 瀬戸大橋線：14.7%(R5)→14.6%(R6) 王越線：18.9%(R5)→21.5%(R6)
方針Ⅳ	●協議会等の開催回数	2回 (計画策定を除く)	協議会2回以上 分科会2回以上	協議会2回 分科会2回	・計画策定にあたり、協議会・分科会を実施。計画策定後も、分科会・協議会を開催し、PDARUサイクルの実施。
	●地域組織の数	—	2組織以上	1組織と連携	・住民団体の「王越ささえ♥隊」、スーパーマーケットのハローズ坂出林田店と共創した取り組みを、R6.10～実施
	●市主催イベントでの公共交通活用事例数	—	2回/年以上	6回	・市主催イベントとコラボした公共交通無料デーを実施 9/16、10/26、11/3、9、10、12/1
方針Ⅴ	●GTFSデータのオープンデータとしての公開	—	実施	R4.11 全線で実施	・R4.11市ホームページでオープンデータとして公開。香川県の協力を得て、香川県オープンデータカタログサイトにも掲載。
	●SNSでの情報発信回数	—	1回/月以上	随時実施	・坂出市公式twitter、LINE、youtubeにてイベントや運行計画について随時広報を実施